

健康 ぷらざ

医師と二人三脚で —「^{ぜんそく}喘息予防・管理ガイドライン」—

指導：帝京大学医学部内科 教授 大田 健

企画：
日本医師会

No. 228

気管支ぜんそくは昔からある病気

気管支ぜんそく（ぜんそく）は紀元前4～5世紀にすでに記録が見られる古くからある病気です。ということは人類の歴史とともに、まだ克服されずにいる病気ともいえます。子どもの7%、成人の4%がぜんそくと考えられ、小児科や内科など多くの診療科が治療に関係しています。



「診療ガイドライン」とは？

治りにくい病気ほど、いろいろな医師によってさまざまな解釈や治療法が行われがちです。医師によってあまり違いがあっては治療効果が上がりませんから、科学的・客観的に根拠が証明されている標準的な診療方針を最新の時点でまとめようという動きが出てきました。これがいわゆる「診療ガイドライン」で、専門家が中心になって作られます。

ぜんそくについていえば「喘息予防・管理ガイドライン2006」という表題で最近まとめられました。

もちろん医師向けですが、標準的な予防法や管理の仕方を守ることによって、ぜんそく診療全体のレベルアップを目指しています。

自己管理をしながら ぜんそくコントロール を進めましょう

「喘息予防・管理ガイドライン」という表題から

は、ぜんそくについては予防と管理が重要だということが分かります。毛や羽のあるペットを飼わない、たばこを吸わない、かぜをひかないように気をつける、などの予防や、いろいろな薬を使ったぜんそくのコントロールなどは、患者さん自身や家族の皆さんが行わなくてはなりません。

自己管理をしながら医師と二人三脚で治療を進め、ぜんそくをうまくコントロールしていきたいものです。